

海外食料需給レポート(Monthly Report)のポイント

国際的な穀物等の需給の見通し(2014/15年度)

平成 26 年 10 月 31 日
大臣官房食料安全保障課

穀物全体の生産量は、前年度より減少するものの、消費量を上回り、期末在庫率は上昇する見込み。
ー穀物全体の期末在庫率(21.3%)は前年度(20.9%)を上回る見込みー

【品目別の需給見通し】

<小麦>

生産量は、カナダ、米国等で減少するものの、EU、ロシア等で増加し、世界全体では史上最高の前年度を更に上回る見込み。生産量は消費量を上回り、期末在庫率は上昇する見込み。

- ◇ 米国の生産量は、収穫面積が増加するものの、冬小麦産地での乾燥型の天候等により単収が低下することから、前年度を下回る。
- ◇ EU の生産量は、収穫面積の増加及び単収の上昇から前年度を上回り、史上最高。
- ◇ 中国の生産量は、収穫面積が減少するものの、好天に恵まれ単収が上昇することから史上最高。

<とうもろこし>

生産量は、ウクライナ、ブラジル等で減少するものの、米国、EUで増加し、世界全体では史上最高の前年度を更に上回る見込み。生産量は消費量を上回り、期末在庫率は上昇する見込み。

- ◇ 米国の生産量は、収穫面積が減少するものの、好天に恵まれ単収が上昇することから、前年度を上回り史上最高。期末在庫率も上昇。
- ◇ 中国の生産量は、収穫面積は増加するものの、主産地で夏の干ばつにより単収が低下することから、前年度を下回る。
- ◇ ブラジル、アルゼンチンの生産量は、収益性の高い大豆に作付けがシフトすることから収穫面積が減少し、前年度を下回る。

<米>

生産量は、中国等で増加するものの、インドで減少することから、世界全体では前年度より減少する見込み。消費量は増加し史上最高となり、生産量を上回ることから、期末在庫率は低下する見込み。

- ◇ 中国の生産量は、収穫面積の増加から前年度を上回り史上最高。
- ◇ 米国の生産量は、南部産地で春の低温湿潤型の天候により単収が低下するものの、収穫面積の増加から前年度を上回る。
- ◇ インドの生産量は、収穫面積の減少及び単収の低下から前年度を下回る。

<大豆>

生産量は、中国で減少するものの、米国、ブラジル、アルゼンチンで史上最高となること等から、世界全体では史上最高の前年度を更に上回る見込み。生産量は消費量を上回り、期末在庫率は上昇する見込み。

- ◇ 米国の生産量は、収穫面積の増加及び単収の上昇により前年度を上回り史上最高。期末在庫率も上昇。
- ◇ ブラジル、アルゼンチンの生産量は、とうもろこし価格の低迷により大豆に作付けがシフトすることから収穫面積が増加し、史上最高。
- ◇ 中国では、生産減と需要増により、輸入量が増加。

<穀物全体>

- ・生産量: 24.69 億トン
(前年度比-0.04%)
- ・消費量: 24.52 億トン
(前年度比+1.4%)
- ・期末在庫率: 21.3%
(前年度差+0.4ポイント)

<小麦>

- ・生産量: 721 百万トン
(前年度比+0.8%)
- ・消費量: 714 百万トン
(前年度比+1.4%)
- ・期末在庫率: 27.0%
(前年度差+0.6ポイント)

<とうもろこし>

- ・生産量: 991 百万トン
(前年度比+0.2%)
- ・消費量: 973 百万トン
(前年度比+2.1%)
- ・期末在庫率: 19.6%
(前年度差+1.4ポイント)

<米>

- ・生産量: 475 百万トン
(前年度比-0.2%)
- ・消費量: 482 百万トン
(前年度比+1.2%)
- ・期末在庫率: 21.6%
(前年度差-1.6ポイント)

<大豆>

- ・生産量: 311 百万トン
(前年度比+9.2%)
- ・消費量: 284 百万トン
(前年度比+5.0%)
- ・期末在庫率: 31.9%
(前年度差+7.3ポイント)